

2024年12月22日（日）第二礼拝「クリスマスに來られたメシア」ルカ2章8～17節

今から二千年前、新約の時代にユダヤ人たちはローマの支配下で苦しんでいました。そのため、彼らはローマから解放してくれるメシアを待ち望んでいました。メシアはアラム語で「油注がれた方、まことの王」という意味です(ギリシャ語：キリスト)。ダビデのような王が来て、ローマから彼らを解放し、政治、経済、全てが自由になることを望んでいたのです。

第一番目、クリスマスに來られたメシアです。イエス様は、ユダヤ人たちが望むメシア像とは全く違う姿で來られました。「私たちの聞いたことを、だれが信じたか。…彼は主の前に若枝のように芽生え…彼には、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見栄えもない。」(イザヤ53:1～2)メシアの誕生は最初、御使いによって野宿で夜番をしていた羊飼いたちに伝えられました。そして、羊飼いたちは急いでメシアを見に出かけました。この知らせは、東方の博士たちによって宮殿の人々や高い地位につく人たちにも伝わりましたが、誰一人、メシアを見に行く人はいませんでした。羊飼いたちはマリアとヨセフとみどりごとを探し当て、見聞きしたことが全部御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行きました。これがファーストクリスマス、初めの礼拝です。

第二番目、飼葉おけです。イエス様は馬小屋でお生まれになり、動物の食べものが入った飼葉おけに寝かせられました。高ぶる人たちには、メシアが馬小屋でお生まれになるなどとは到底信じることはできませんが、心碎かれた謙遜な人たちにはそれが分かります。

マタイ1章のイエス様の系図には、マリア以外に四名の女性が出てきます。これらの女性たちは皆、遊女や異邦の民など訳ありの人たちでしたが、自分のような罪人のためにイエス様がお生まれになったと認める人たちのうち(系図)に、イエス様は入ってくださる(啓示される)のです。イエス様はベツレヘムでお生まれになりました。ベツレヘムはパンの家という意味です。飼葉おけに寝かせられたイエス様は、私たちの罪の赦しのためのパン(食べもの、生きる糧)として、この地に來られたのです。イエス様の誕生を見に行った羊飼いや、イエス様の系図にある女性たちのように、自分の罪を認め、心碎かれ、へりくだる人には、イエス様こそ天から下った、まことのいのちのパンだと分かるのです。

第三番目、メシアはサタンを滅ぼすために來られました。サタンは高ぶりの頭を持っています。そのサタンを審判するために、最も高いところにおられたイエス様は低くなられ、この地に生まれて來られました。これが一度目のバプテスマです。二度目のバプテスマは、イエス様が人間のヨハネからバプテスマを受けられたことです。その時、天が開き、聖霊が鳩のように下りました。低くなる場所に聖霊が下るのです。三度目のバプテスマは、イエス様が十字架まで従われたことです。イエス様のへりくだりによって、サタンの高ぶりの頭は打ち碎かれました。そして、イエス様は死を打ち破り、よみがえられたのです。へりくだるところに主はおられ、へりくだる人とともに住んでくださるのです。「…わたしは高く聖なる所に住み、心碎かれて、へりくだった人とともに住む。…」(イザヤ57:15)アーメン！